

平成27年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

志の高いリーダーを育成する学校
 「世のため人のため、世界のため」という社会貢献意識を強くもち、気品に溢れる、情操豊かな生徒を育て、その進路実現を叶える学校
 めざす学校像を4つのキーワードで示す。
 「鍛える」…生徒が互いに励ましあい支えあいながら切磋琢磨し成長できる学校 「極める」…グローバル社会で活躍できる高い学力をつける学校
 「繋がる」…互いの違いを認め合う豊かな人間性を醸成する学校 「描く」…将来にわたる社会との繋がり方を描き、社会的貢献できる人材を育成する学校

2 中期的目標

1 グローバル社会を生き抜く高い学力を育成する

(1) 計画的に学力向上に取り組むスキームと、生徒自身が学力向上のプロセスと進捗を確認できるツールの確立。

A 学習のスタンダード（教科指導の指針）の充実。英語科における CAN DO LIST の作成。

B 学力定着度を測るための指針としての、GTEC（1・2年生の英語力）の導入、全国模試等の各学年全員受験の推進。

【目標】生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。（今年度より実施。80%超をめざす。）

(2) 授業改善

C アクティブラーニングの推進。英語の少人数授業の改善。

D 生徒による授業評価の活用。教員の互見授業、研究授業を含めた教科内研修の推進。外部者への授業公開。

【目標】生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。（すべての項目で各年度とも前年度より3%ずつ毎年向上）

(3) 組織的課外講習・補習の実施

E 各教科・進路指導部・教務部が連携した、課外講習・補習の学年ごとの講習年間計画の作成と実施。

【目標】生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。（H26：81%→80%超維持）

(4) 自学自習力の育成と自習環境整備

F 学習室の整備と生徒への自習室活用方法の周知徹底。

【目標】授業、学習塾以外での学習時間の増加。（今年度より調査）

生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。（H26：69%→H29：80%）

(5) 国際社会を生きる「英語力」の育成。

G 母国語の知識・論理・情緒を内包した上での、4技能のバランスを考慮した英語教育の実施。

H 修学旅行・イギリス語学研修・海外語学留学等を通じた国際交流の充実と訪日団体・留学生の受け入れ。

【目標】2年生のGTECでの得点平均380点超。3年後に大学入試センター試験「英語」で、本校生の得点平均75%超。

2 高い志をはぐくみ、すべての生徒の進路実現をめざす

(1) 生徒に自らの将来像を描く力を育成し、モチベーションの高揚を図るキャリア教育の充実。

I 社会で活躍している卒業生や第一線で活躍している人材による講話の拡大。

【目標】生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。（H26：44%→H29：70%）

(2) チーム泉陽による生徒支援体制の確立。

J 入試問題・入試動向の研究と全国模試の分析。統合ICTを活用した情報の共有化。

K 進路指導能力向上のため、教員による模試・学力生活実態調査の結果分析会の実施。

【目標】生徒・保護者向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。（H26：77%→H29：80%超）

3年生6月に希望する進路の実現率の向上。（H26：44%→H29：60%）

(3) 読書活動を推進し幅広い教養を育成する。

L 朝読や授業での、学校推薦図書「泉陽の500冊」の活用による読書習慣の確立。

【目標】生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。（今年度より実施。80%をめざす。）

3 人としての豊かな見識と情操を育てる

(1) リーダーシップ、パートナーシップ、協力協働の社会的精神の醸成。

M 充実した部活動の持続と学習時間の保障。

【目標】部活動参加率90%超を維持しながら基礎学力の向上をめざす。（学力生活実態調査における学力・学習平均レベルA3に）

N 「自主的な学校行事」の促進。

【目標】生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。（H26：81%→80%超維持）

O 清掃活動等、ボランティア活動の推進。

【目標】「一部活動一社会奉仕運動」の実現。

(2) 生活指導や学校教育活動全般を通じた、豊かな人権感覚、望ましい生活態度、社会のリーダーにふさわしい感性と情操の育成。

P 教育活動全体を通じた人権感覚の醸成。

【目標】生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。（H26：69%→H29：80%）

Q 「遅刻ゼロ」運動、「自分からあいさつ」の推進。

【目標】遅刻総数の減少（H26：1939回→H29：1150回）、生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。（H26：82%→80%超維持）

R 話をきちんと聞くことができる力、考えを的確に伝えることのできる力の育成。

【目標】生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。（今年度より実施。80%をめざす。）

4 チーム泉陽として課題解決にあたる教員集団の確立

(1) 「泉陽勉強会」の開催。

【目標】教職員向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。（H26：46%→H29：80%）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成27年12月実施分]	学校協議会からの意見
学校の教育活動に対する肯定率の変化（H26→H27） 【保護者】 ①学校に対する意識 89%→91% ②学習指導 73%→81% ③生徒指導 86%→90% ④進路指導 78%→82% ⑤道徳人権 83%→88% ⑥情報提供 85%→90% ⑦学校教育への参画 85%→88% 【生徒】 ①学校に対する意識 85%→89% ②生徒指導 76%→85% ③進路指導 83%→86% ④教育相談 54%→62% ⑤道徳人権 69%→62% ⑥特活行事 78%→91% 【教職員】 ①学校組織 46%→60% ②教育活動の改善 62%→69% ③生徒指導 74%→75% ④進路指導 85%→91% ⑤教育相談 87%→87% ⑥特活行事 82%→100% ⑦情報提供 71%→85% ※保護者・生徒・教職員とも多くの項目で評価は向上している。いくつかの評価が伸びていない項目の改善に工夫の余地がある。	第1回（7月17日） ・教員と生徒とでズレがないように、目標設定をすることが必要。 ・生徒がどのように生きてゆかかを、アクティブラーニングしてほしい。 ・学校が生徒にどのような力をつけたいか、これが重要である。 ・生徒の将来のためには、非認知能力の育成が大切である。 第2回（11月30日） ・本校で取り組んでいる「振り返りシート」は有効であるが、それに対する教員のフィードバックが大切である。 ・単なる大学選別に終わらないような進路指導が必要。 第3回（2月22日） ・学校教育自己診断結果を見る限り成果は上がっている。 ・今年度評価が伸びなかった部分について、実態が正確に反映されているか検証が必要。問い方に関して、次年度は診断項目の精査が必要か。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
グローバル社会を生き抜く高い学力を育成する	(1) 学力向上のプロセスと進捗を確認できるツールの確立	(1) A 学習のスタンダードの充実により、教科として、泉陽生につける力の統一をはかり、質の高い授業を提供する。特に英語力の育成を図るための CAN DO LIST を作成する。 B 学力指標としての全国模試等の、各学年全員受験を推進する。	A 「学習における自分の具体的な目標がわかっている」を 80%に。(今年度より実施) B 学力指標とする模試等の受験率を 100%に。	A 「振り返りシートを使い、学力の定着度の確認や向上に向けた改善に取り組んでいる」66% (△) B 1、2年7・11月、3年6・11月模試全員受験。(○)
	(2) 授業改善	(2) C 生徒が主体的に取り組む授業実現のため、各教科における効果的なアクティブラーニング (AL) の在り方について検討し、導入に取り組む。 D 授業アンケートで高い評価を得ている教員による示範授業を実施する。 ・全教員が互見授業を年2回実施し、評価シートを活用した本人へのフィードバックを行う。 ・各教科での研究授業だけでなく、教科を超えたテーマ (ICT、AL、座学、実技) による研究授業を実施する。	C 「授業で発表したり協議する機会が多い」を 50%以上に (前年度 48%)。 D 「社会に有為な人材を育成しようとしている」「学力向上、自主活動の充実、気品ある生活態度の育成は実現されている」「進捗や難易度が適切な授業が多い」「教材や教え方に様々な工夫をしている先生が多い」をそれぞれ前年度 (71% から 78%) より 3% 向上。	C 「自分の考えをまとめたり発表する授業がよく行われている」58% (◎) D 「社会に有為な人材を育成しようとしている」75%→87%、「学力向上、自主活動の充実、気品ある生活態度の育成は実現されている」72%→83%、「進捗や難易度が適切な授業が多い」77%→84%、「教材や教え方に様々な工夫をしている先生が多い」71%→78% (◎)
	(3) 講習・補習の組織化	(3) E 教科・学年・学校全体としての組織的課外講習を実施する。 ・各教科で最終目標を設定した上で、授業以外に必要な内容を講習として設定する。	E 「講習は役立っている」の 80% 超維持。(前年度 80.6%)	E 「講習は役立っている」81% (○)
	(4) 自習環境の整備	(4) F 学習室 (図書館を含めて) を整備し校内で自習可能な環境を保証するとともに、さらなる活用に向けた生徒への啓発を行う。	F 「休日の学習室の開放は役立っている」を 75%以上に。(前年度 69%) ・授業、学習塾以外での学習時間の増加。(今年度より実施)	F 「休日の学習室の開放は役立っている」69%→75% (○) ・自宅学習時間の前年度比増減 (○) 1年平日+13m 休日+11m 2年平日±0m 休日-6m 3年平日+11m 休日+3m
	(5) 国際社会を生きる「英語力」の育成	(5) G H26 学校経営推進費で整備した LL 教室・タブレット端末を活用するなどして、英語 4 技能の能力を向上させる。 H 修学旅行、イギリス語学研修、海外留学等で海外を見聞する機会を設ける。 ・訪日団体や留学生の受け入れに前向きに取り組む。 ・海外研修参加者を中心に英語によるプレゼンテーション大会を実施する。	GH ・センター試験の「英語」平均点 70%に。(前年度 66%)	GH ・センター試験の「英語」平均点 68.1% ・全国平均が下がったため、本校/全国で見ると 112%→121%とアップ (◎)
すべての生徒の進路実現をめざす 高い志をばぐくみ、	(1) 将来像を描く力の育成	(1) I 生徒のロールモデルとなる卒業生や社会の第一線で活躍している人材による講話を拡大して実施する。	I 「卒業生や社会人の話はたいへん参考になった」を 50%以上に。(前年度 44%)	I 「将来の進路や生き方について考える機会がある」83%→86%、「社会で活躍するリーダーから学ぶ機会が多い」50%→59%、「大学生等の卒業生の話を聞く機会が多い」44%→47% (○)
	(2) チーム泉陽による生徒支援体制の確立	(2) J 入試問題研究・入試動向研究を継続する。 ・全国模試の分析を進路指導部で行い統合 ICT を活用して情報を共有する。 K 教科での分析と合わせて業者に頼らない教職員研修を実施して情報の共有化と教員の進学指導能力の向上を図る。	JK ・3年生6月時点の志望校3校に、50%以上が現役合格。(前年度 44%) ・「進路指導が充実している」を生徒・保護者とも 80%以上に。(前年度 74%)	JK ・3年生6月時点の志望校3校に何%現役合格するかについては集計中だが現役国公立大学合格者 128名→148名 (◎) ・「各種説明会や大学の見学会など進路選択に関して学ぶ機会が多い」生徒 77%→81%、保護者 73%→77% (△)
	(3) 読書活動の推進	(3) L 教科の学習活動に学校推薦図書「泉陽の 500 冊」を活用するなど、アプローチの仕方を工夫して生徒の意欲の向上を図る。	L 「読書に対する意欲・関心が高まった」を 80%に。(今年度より実施)	L 「朝読や『泉陽の 500 冊』をきっかけに読書に興味を持った」28% (△)
人としての豊かな見識と情操を育てる	(1) 協力協働の社会的精神の醸成	(1) M 進学校にふさわしい学力保障を前提に、部活動に打ち込める環境づくりに努める。 N 「自主的な学校行事」が行えるよう、学校行事に対する生徒の自主的関与をさらに深める工夫を行う。 O 実績のない部活動に参加を呼びかけるなど、部活動ごとのボランティア活動を推進する。	M 「学習・部活動の両立ができた」を生徒・保護者とも 70%以上に。(前年度 64%) N 「文化祭・体育祭は生徒の力で自主的に運営されている」の 80% 超維持。 O 部活動 1 部につき 1 つ以上のボランティア活動を実施。	M 「学習・部活動の両立ができて」生徒 64%→67%、保護者 66%→73% (△) N 「文化祭・体育祭は生徒の力で自主的に運営されている」81%→91% (◎) O ボランティア活動を行った部活動 36部/38部。
	(2) 社会のリーダーにふさわしい感性と情操の育成	(2) P 各学年 2 回以上人権 HR を実施する。 ・可能な教科・科目で、人権をテーマとした体験学習を実施する。 Q 「遅刻ゼロ」運動と全校統一の指導を行うことにより不必要な遅刻を限りなく減少させる。 ・「自分からあいさつ」を推奨するため、教職員が率先してあいさつを行う。 R 授業での AL に限らず、行事等の自主運営などさまざまな機会を活用し、きちんと人の話を聞くことのできる力、自分の考えを適切に相手に伝えることのできる力の育成に努める。	P 「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」を 80%に。(前年度 68.8%) Q 遅刻総数を 1500 回に。(前年度 1940 回) ・「自分からあいさつしている」を 80% 超に。(今年度より実施) R 「人の話をきちんと聞くことができる」「自分が伝えたいことをある程度正確に伝えることができる」をそれぞれ 80%に。(今年度より実施)	P 「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」69%→62% (△) Q 遅刻総数 2181 回 (△) ・「あいさつやマナーを守る指導を行い、社会人としてモラルを守る態度を育てようとしている」82%→90% (◎) R 「論理的にものを考える力、自分の考えを的確に伝える力が身についた」66% (△)